

I 研究の概要

1 研究主題

自分の考えを互いに分かりやすく伝え合う子供の育成
～「対話的な学び」に重点を置いた複式国語科学学習指導を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 背景

これからの社会においては、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展し、今の子供たちはこれまでよりもますます複雑で予測困難な時代を生きていかなければならないとされている。

こうした変化の激しい社会の中では、様々な変化に積極的

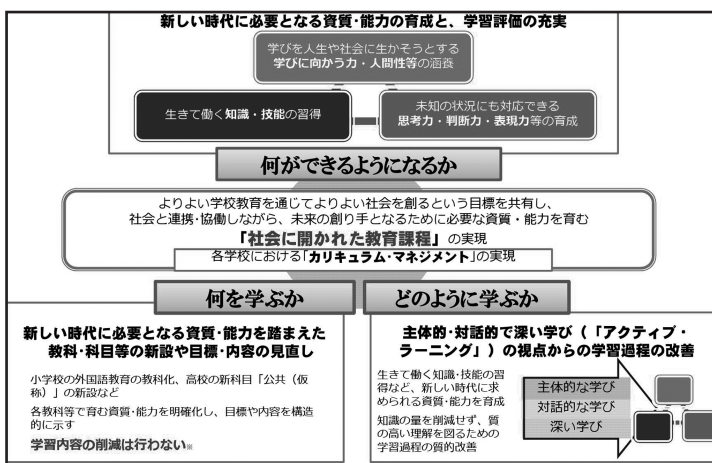
に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、再構成するなどして新たな価値につなげていくことが求められている。学校教育には、子供たちが学習を人生や社会と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯に渡って能動的に学び続けることができるよう、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」といった学習者である子供の目線の授業改善が求められる（資料1）。

本校では、次のように学校教育目標、目指す子供像と二つの重要指導事項を設定し、日々授業改善を図っている。

学校教育目標	心豊かで すすんで学び たくましく 生きる力を備えた宇宿っ子の育成
目指す子供像	自分の考えをしっかりとち、交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりする子供
重点指導事項	○ 一人一人が分かる授業と生きる力を育む学習指導の充実 ○ 複式学級の特徴を生かした学習指導法の研究・改善

平成15年度からは、県総合教育センターの研究提携校として、複式学習指導についての研究・実践をしている。平成27年度からの3年間の算数科の研究では、話し手と聞き手が考えをつなぎ合い、共に創り上げていく対話的な発表の仕方等について研究してきた。平成30年度の外国語活動の研究では、コミュニケーションスキル等について研究・実践を行ってきた。これまでの研究を通して、子供たちは話し手と聞き手の重要性を理解し、自分の考えを意欲的に説明することができるようになってきた。

また、複式学習指導におけるガイド学習の進め方を身に付けた子供たちが増えてきている。一方で、話合いが形式的なやり取りに終始することもあり、自分の考えを上手に表現できず、互いの考えを広げたり深めたりすることが十分でないという課題も明らかになってきた。



【資料1】学習指導要領の方向性
「平成28年度文部科学白書」より】